

「みんなの食堂事業」構想

保健福祉分科会（2—1班） 石原（ミ）、窪田、堂脇、鳥越、萩迫

○高齢者一人ひとりの日々の生活を地域で見守り支えるために、この事業構想を立案

私たちの調査・研究のテーマ「高齢者の地域生活について」

・テーマについて現状として把握されたこと ①高齢者が抱える生活課題は「公助」で対応できない暮らしの基本的なことで「共助」による支援が求められている。

②日常生活での業者に頼むほどではない細かな事や、日々の食事のこと、文書への対処などを相談する先がなくて困っている人がいる。

③一人暮らしの高齢者は、地域の人々とのコミュニケーションの機会が少なくなり《閉じこもり》の状況になり易く、高齢者サロンなどがあっても、人付き合いが苦手だったり、内容に興味を持てなかったりして、参加したくない人、できない人もいる。

・課題として提起されたことを集約すると 高齢者の地域生活を支える「公助」には限界があるので、高齢者や高齢者を看ている家族が抱える生活上の困難を、地域住民の一員として共に生きる私達は、どのように支えていけばよいのか？という問題意識を深め、高齢者一人ひとりを見守り・支える、地域コミュニティによる「共助」のかたちを創る必要性が提起されました。

この「共助のかたち」について話し合いを進める中で「高齢者サロンなどに出掛けられない人にこそ支援が必要である。」との認識のもと、そのような人達をどうしたら支援できるかを考え、まず困っていることを気軽に相談できる関係を築くことが必要であるとの結論に達した。高齢者が主に住んでいる地域は、交通の便が悪く店がなく、買い物ひとつでも大変である。健康維持のためにも一日も欠かすことのできないのが食事である。毎日3回の食事を作ることが高齢者にとってどれだけ大変で、面倒で、かつ労力を要することか。だから、生きていく上で最も根本的かつ重要な食事を提供する「場」を作り、一緒に食事を作り食べることを通して、困っていることを気軽に相談できる関係を築き、地域の人々が日々の暮らしの中で、周りの人のことを少しずつ気にかけるしくみを作り、地域の人々は地域の人達で見守り支える体制を構築する。

また、日常的には近くの人が見守りつつ、支援の必要な人の情報を集約することで、民生委員・女性アドバイザー・自治会長等との連携をはかり、見えないセーフティーネットを構築することができる。

多様な人が集まれば、日常のちょっとした困り事は、誰かが対応できるしくみを構築することもできるようになる。

この構想の付加価値

- ・きちんとした食事をとることで健康な体づくりができ、医療費も削減される。
- ・人と会話することで孤独感から解放され、自分の作った物が使われることで生きる喜びを感じることができ、次を楽しみにすることで生きることに積極的になる。
- ・住民同士の情報交換の場となる。
- ・気軽に相談できる人、場所があることで、安心して生活することができる。

この構想によって利害が及ぶ人

- ・民生委員、健やか支援アドバイザー、自治会長等の役職にある人
- ・コミュニケーションが苦手な孤立するおそれのある人
- ・地域で野菜等づくりをしている人
- ・調理をする人、施設管理をする人
- ・情報を取得できないため、利用できる行政サービスを利用できていない人

長期的(3～5年程度)経営計画

- ・利用者の支払う食事代で経費（材料費、人件費等）が全てまかなえ、食堂の運営が軌道に乗る。
- ・宅食サービスを展開する。
- ・低額でちょっとしたお手伝いを頼み頼まれるしくみができあがる。

中期的（1～2年程度）経営計画

- ・食堂オープンの宣伝をする。
- ・メンバーが増え、平日のみ毎日食堂を開くことができる
- ・見守りが必要な人を近所の人が見守り、民生委員等との連携をはかる。

短期的(数ヶ月)経営計画

- ・中心メンバーを募り代表者を決め実施計画を作成。
- ・利用候補者へのアンケート、市場調査を実施する。
- ・場所を選定する。（バリアフリー・車いす等にも対応できる場所）
- ・保健所等の手続きをする。
- ・資金を調達し、設備を整え、スタッフを募集する。
- ・見守りが必要な人の情報を集約する。
- ・地区コミュニティ協議会、自治会への事業説明

実現のための制約要因

- ・メンバーの確保
- ・施設の管理
- ・食中毒等の事故への対応
- ・食材の調達
- ・資金調達

実現のための制約要因

- ・代表者のなり手の確保
- ・メンバーの確保
- ・資金調達

獲得すべき経営資源

- | | | |
|-------|--|---------------------|
| 人的資源 | ○主婦 | ○栄養士、調理師等の資格を持つ人 |
| 物的資源 | ○場所(小学校跡地等) | 備品(机・椅子等) 食器類、調理器具等 |
| 財務的資源 | ○運営資金、(人件費、光熱費、材料費、設備費、消耗品費、保険料等) | |
| 情報的資源 | ○口コミ、行政との連携・各種メディア(新聞・TV・FMラジオ・ネット)の活用 | |

そのために必要なネットワーク化

- | | |
|---------------|--------------------------------------|
| 自らの組織・グループの補強 | ○人的資源としての一人ひとりのメンバーの掘り起こし。 |
| 他の組織やグループとの関係 | ○地区コミュニティ、社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会などとの連携 |
| 対行政 | ○薩摩川内市役所(コミュニティ課、関係各課)、保健所など |